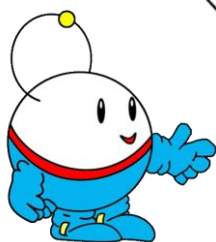
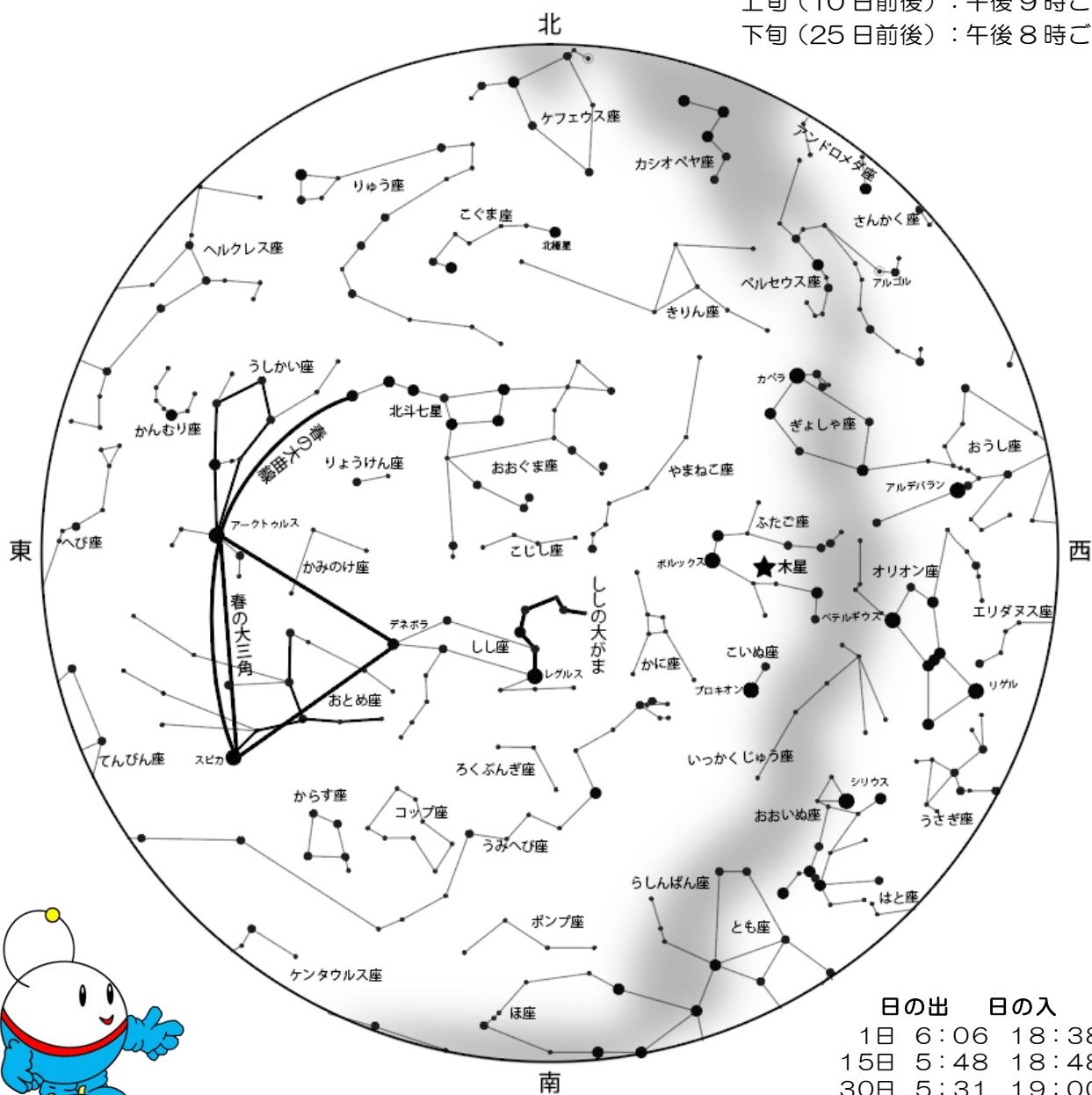


4月の星空さんぽ



下旬（25日前後）：午後8時ごろ



桜の花も見頃を迎え、日ごとに春を感じる陽気となりました。夜空でも西の空には冬の星座、南から東にかけては春の星座を見ることができ、冬から春へと移り変わっていくを楽しむことができます。

これから見頃を迎える春の星座探しは、北の空にある7つの星でつくる「スプーン」のような星の並び、「**北斗七星**」を探すところから始まります。北斗七星は**おおぐま座**の背中からしっぽにあたる部分になります。北斗七星を「スプーン」に見立てたとき、持ち手の部分から南に向かってカーブをのばしていくと、オレンジ色に輝く**うしかい座**の1等星**アークトゥルス**が見つかります。さらにカーブをのばしていくと、白く輝く**おとめ座**の1等星**スピカ**が見つかります。うしかい座はアークトゥルスから北側にのびる「ネクタイ」のような星の並びが目印です。おとめ座はスピカと「アルファベットの Y の字」のような星の並びが目印です。北斗七星からスピカまでのばした大きなカーブは『**春の大曲線**』といい、春の星座探しのよい案内役になります。

南の空高いところには、1等星**レグルス**をたよりに「？マーク」をひっくり返したような星の並びが見つかります。この星の並びは“**ししの大がま**”といい、しし座を見つける目印になります。また、しし座のしっぽで輝く星が2等星の**デネボラ**です。そして、うしかい座の**アークトゥルス**とおとめ座の**スピカ**、しし座の**デネボラ**を結んでできる三角形を『**春の大三角**』といいます。

晴れた日の夜にはぜひ、春の夜空に描かれる『春の大曲線』を目印に、『春の大三角』や春の星座探しを楽しんでみてください。

《4月の天文カレンダー》

日	曜	天 文 現 象	日	曜	天 文 現 象
2	木	○ 満 月 (11:12)	17	金	● 新 月 (20:52)
4	土	水星が西方最大離角	24	金	◐ 上 弦 (11:32)
10	金	◑ 下 弦 (13:52)			

【惑星の見え方】 (☆マークは、今月のおすすめです。)

水星 (-0.4~0.3 等)	: みずがめ座→うお座	観望に適さない。
☆金星 (-3.9 等)	: おひつじ座→おうし座	日の入り後、西の低空で輝く。
火星 (1.2 等)	: みずがめ座→うお座	観望に適さない。
☆木星 (-2.1 等)	: ふたご座付近	宵の頃、南西から西の空で輝く。
土星 (0.9 等)	: うお座→くじら座	観望に適さない。

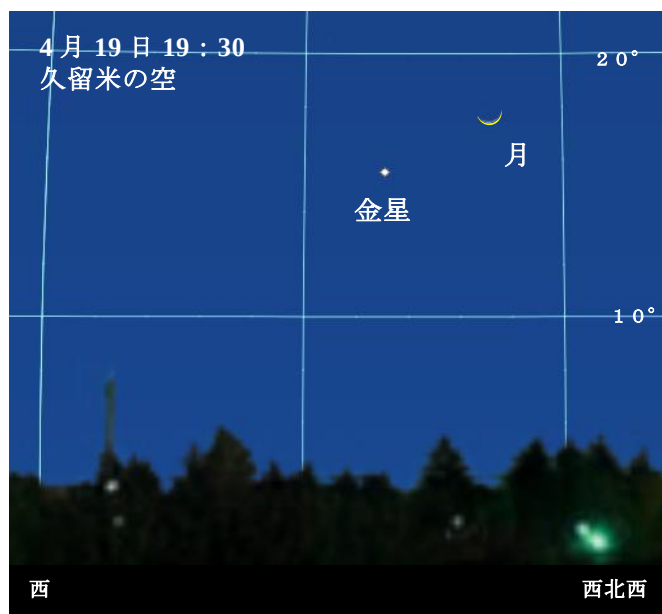
注目の天文現象(4月) ~三日月が金星に接近~

4月に入り、日の入りの西の空には、宵の明星とも呼ばれる金星が見えます。清少納言が書いた平安時代の書物『枕草子』の一節には、「星はすばる。彦星。ゆふづつ。…」と書かれています。この中の「ゆふづつ」は宵の明星のことを指し、その美しさが讃えられています。3月に比べると、金星の高度も上がっており、観望しやすくなっております。

19日(日)には、細い月が金星に接近します。この日の月は、17日(月)の新月の日を1日目とした3日目の月で「三日月」と呼ばれます。

天体同士の接近現象には様々なバリエーションがありますが、その中でも細い月と金星の組み合わせは、明るさや分かりやすさ、空の色合いなどを総合的に考えると、最も美しく見応えのある共演だと言えます。ぜひご覧になってみてください。

《三日月が金星に接近する様子》



【ステラナビゲータ11/株式会社アストロアーツ】

《天文イベントのご案内》

☆市民天体観望会 4月25日(土) 20:00~21:00 要予約

「木星と春の二重星をたのしもう」

- 対 象: 制限なし(ただし中学生以下は保護者同伴) ■定員: 100名
- 参加費: 無料
- 予 約: 4月11日(土) 9:30よりオンラインにて先着順に受付開始。



○オンラインでの予約受付について

- ・イベントのご予約は右のQRコード、または当館ホームページよりお願いいたします。
- ・ご不明な点がございましたら来館またはお電話にてお問合せ下さい。(☎0942-37-5566)

ご予約用QRコード



最新の情報は、ホームページまたはお電話にてご確認ください。